

# うつのみやこども賞だより

平成19年度 第6回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番人気の高かった本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

## 《今月選ばれた本》

「ぼく、探偵じゃありません」

後藤みわこ / 作 (学習研究社)

「真夜中の商店街」

藤木稟 / 作 (講談社)



## ～読んだ本の感想より～

いつも休んでいても学校に行ける日はみんなの悩みを解決するなんてすごいと思った。

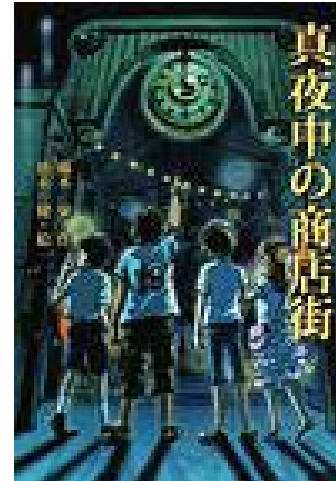
リキ君が病弱なのはかわいそうだと思った。私と知世ちゃんは似ているのですらすら読みました。

本を読みながら自分も推理してしまうので、読み出したら止まらなくなりました。

探偵じゃありませんと言いながらいろいろな事件を解決するところが面白かった。

リキが事件を解決する方法も面白い。知世の食べっぷりがすごいと思った。

探偵じゃないリキが事件を解決しているのが面白かった。



4人ともずるい事をして好きな物を手に入れたけど、最後は自分たちのしたことに気づいて手に入れた物を返したところがよかった。

みんな便利な物をもらい嫌いな物と交換していくけどそれが大切で必要なものだとわかったところが心に残った。

4人が本当に大切なことに気づいてよかったと思った。

私はこんな商店街では絶対に買い物なんかしたくないと思いました。どうみてもあやしいです。

真夜中の商店街はとても怖かったです。

私も大事なことは何なのかよく考えてみたいと思いました。

「ジジ きみと歩いた」

宮下恵菜 / 作 (学習研究社)

ジジとの出会いからジジの一生までを描いていて心に残りました。ジジとの出会い方が面白かった。

むさくるしい犬が翼を成長させるなんておどろいた。

最初はジジのこと「変な犬」と思っていたけど、最後の方になって「いい犬だった」ということがわかって良かった。

心温まるお話でした。ジジが翼の時だけいじわるするところが面白かった。

「ほおずきちょうちん」

竹内もと子 / 作 (岩崎書店)

大ばあちゃんの心残りが気になってどんどん読みました。

怖くない幽霊がでてきて面白かった。最後に大ばあちゃんが会いたい人に会えてよかった。

幽霊になってまで出てくる大ばあちゃんの修平さんへの気持ちは強いんだろうな、と思いました。

泣けた。

家族全員で大ばあちゃんの幽霊の心残りを探るところが良かった。